

# 守大助さん面会記 えん罪・仙台北陵クリニック事件



2月22日 (金) 御両親

1月はこちらの体調不良で面会できなかったのを手紙で知らせていたが顔を見てお互いに安心しました。大助は3者協議のことが連絡されており明るい顔でした。しかし、霜焼けが酷くアカギレになっていて、医師の薬を頂いて難とか我慢出来ている感じでした。温暖な千葉も寒さが厳しく痛々しさが伝わってきます。大助さんは「面会方法が昨年9月に変更になったことで面会できない人いると残念だ。」など多くの方々からの支援や面会に気を遣っている。私たちは23日に茨城の支援する会に参加しました。

2月7日 (木) 田村、岸田、戸賀 (救：千葉)

前日の寒さとは違って変わり早春らしい陽ざしを感じながら刑務所の門をくぐりました。初めての面会で私自身は少々気構えて臨みましたが、大助さんは入ってくるなり終始明るい笑顔で、私の方が元気をもらったような気がします。1月は面会に来られなかった御両親への思い、特にお父様が血圧が高いことを気にかけて心配されての優しい言葉や、12月に、検察がいままで主張を180度転換したことについて、マスコミ等がどのような反応だったのかを知りたいということ。大助さんが自身の思いなどを多く語られ、あっと言う間の20分間でした。手指の荒れが酷く痛いとのこと、今年の冬は特に寒さが厳しいのにカイロも使えないと聞き胸が痛みました。

差入れが出来るものが最低限に限られていることもビックリ! 文庫本3冊と大助さんの要望でハンドクリームを差し入れました。支援者が面会に行き大助さんと思いをひとつにして行くことの大切さを感じました。 田村さん

えん罪・仙台北陵クリニック事件

守大助さん (当時29歳) が勤務していた当時の医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。

大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されています。試料は鑑定時に全量消費 廃棄され、再鑑定ができません。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立を行いました。

2月13日 (水) 赤間、浅野、田中 (救・相模原)

私は4年ぶりの面会で赤煉瓦の門をくぐって待合室で 時間30分も待たされ疲れてしまった。訳は『今日は面会者が多い』とか『大助さんを呼び出すのに時間がかかった』と言ってましたが大助さんの話しによれば『大助さんに手紙が届くのが遅れたから』との事でした。

いつもながら元気な大助さんの姿を見ることが出来ました。検察の意見書で従来の検察主張を変えたこと、鑑定試料 (尿、血液など) を当時、全量消費していなかったなどを大助さんに教えていただきました。

20分の面会はあっという間に終わりました。週刊誌3冊を差し入れました。支部として今後も面会を募り支援を強めたいと思いました。

田中さん

● 3月の面会日 26日。26日両親、 日 ● 4月の面会日。19日だけ、

◆面会申し込み/救・神奈川県本部 電話050-3310-1368/fax045-663-7953

E-mail [kyuenkai-k2@clock.ocn.ne.jp](mailto:kyuenkai-k2@clock.ocn.ne.jp)

◆発行：救・千葉県本部 Tel043-251-7351 fax043-251-4159

E-mail [kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp](mailto:kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp)

激励先 〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2013年3月 55号

